

「学びの変革」通信

学力向上推進研究協議会

令和7年5月19日（月）に、市内小中学校の学力向上担当教員を対象に、学力向上推進研究協議会を開催しました。

福島県教育庁義務教育課指導主事より、授業改善グランドデザインを基に、福島県の学力の現状や学校質問紙から見える福島県の強みと課題を基に、授業改善のキーワード「教師が『話す』授業から、教師が『みる』『きく』『つなぐ』授業へ」や「すべての子ども」を明らかにしました。また、学力の伸びを引き出した学校の取組事例集に掲載された錦小学校と小名浜第二中学校の事例を基に、学力の伸びを引き出すために、**教師が同じ方向を向いていること、子どもも教師も生き生きしていること、取組に自信をもっていること**が大切であることを確認しました。

中学校区で行った協議では、各校の学力向上の取組を共有しました。児童生徒の実態から、どのような工夫があるのか、また、小中一貫の視点で取り組めることはないのかなど、短い時間ではありましたが、熱の入った協議が行われました。

以下は、参加者の感想です。



「すべての子ども」をキーワードとして、生徒指導と授業改善を結びつけて考えることを学んだ。エビデンスに基づいた学力向上を図るため、学校・学級ダッシュボードを活用し、全職員が同じ目標に向かって行けるよう目標を設定したい。また、授業改善グランドデザインや「学びの変革」授業デザインなどの参考資料を校内の職員に周知したい。

（小学校教員）



教師が話す授業から子どもが話す授業づくりをということを心に留めて授業を進めたい。また、『すべての子どものための授業』という視点で授業改善をする必要があるということも学校全体で共有して現職教育を進めていきたい。

（中学校教員）



授業の魅力化応援オンライン研修会

令和7年5月7日付け文書で案内済みの「授業の魅力化応援オンライン研修会」について、第4回から第9回まで、引き続き参加希望者を募集しております。

放課後の時間（15時30分から16時30分の1時間）を利用して、テーマについて語り合い、子どもにとって魅力的な授業づくりを考え、明日からの活力としませんか。

研修会の申し込みについては、各学校に送付された通知文を参照してください。

第4回	【外国語】 7月17日(木) 15:30~16:30	「Try and Enjoy English ! ~Learn by doing~」	小中	
第5回	【複式指導】 7月25日(金) 15:30~16:30	「複式学級における授業づくり 「いろはのい」を語り合おう」	小中	
第6回	【国語科】 7月28日(月) 15:30~16:30	「戦後80年だからこそ一緒に考えよう ~戦争関連教材を扱った授業づくり~」	小中	7月2日(水)
第7回	【理科】 7月29日(火) 15:30~16:30	「全国学調から細かく！ 理科授業づくりの大切な視点」	小中	
第8回	【算数科】 7月31日(水) 15:30~16:30	「子どもの『学び出す』を促す授業アイデア」	小	
第9回	【数学科】 8月6日(水) 15:30~16:30	「全国学調の報告書を読んでみよう」	中	7月23日(水)

お知らせ

○ 算数・数学授業づくり支援訪問（令和7年4月1日付け7教義第10号）及び学力向上支援アドバイザーの派遣（令和7年4月22日付け7教義第234号）を随時受け付けております。各校の授業改善の一助となるよう努めますので、積極的な活用をお願いします。

○ 「学びの変革」授業デザインでは、子ども観、学力観、授業観、評価観といった「観（かん）の変換」が求められています。各学校の児童生徒の実態把握に応じて、どのような学力観が求められるのか、どのような授業が適切な学びであるのかなど、校内現職教育等の時“間（かん）”を活用し、所属職員“間（かん）”で共有していくことができるといいですね。

「観」を見つめて

教師がもつ「観」は、授業づくりや働きかけ、子どもの学びの質を大きく左右します。子ども観、学力観、授業観、評価観といった自分の「観」がどのようなものなのかを振り返ってみましょう。

子ども観 子どもは、どのような存在ですか？

- 子どもは、自ら学びを進め、自ら成長していく存在です。
- 教師が、一つ一つの指示を与えなければ、子どもは動けないと思っていませんか。
- 教師の経験や価値観で、子どもの実態や学び方を決めつけていませんか。

「目の前の子どもありのままを受け止めよう」
「子ども一人一人の力を信じ、引き出す支援の在り方を考えよう」